

# The Kagawa Museum NEWS

Vol. 45

香川県立ミュージアム  
ニュース  
2019 夏



## CONTENTS

特集 祭礼百態さいれいひゃくたい —香川・瀬戸内の「風流」ふうりゅう

ミュージアムガイドンス 県立ミュージアムとオニノコプロダクションの挑戦

れきみんだより 懐かしの高校理科実験器具と標本 —人体模型からプラスチックまで—

トピック 「日本建築の自画像」展プレ・シンポジウムを開催しました

第1展示室に美しい魚が泳いでいます!

展示室だより ゆかりの品々でたどる天皇家と高松松平家／描かれた祭

特別展「祭礼百態」主な展示資料

- ① 滝宮の人形を乗せたつくり太鼓(土庄町)
- ② 虎頭の舞(東かがわ市)
- ③ 女木島中の組の屋台(高松市)
- ④ 八兵のだんじり(観音寺市)
- ⑤ 上三名の高荷馬(高松市)
- ⑥ 上河内太鼓台(三豊市)
- ⑦ 王の下のだんじり(高松市)
- ⑧ 釣東の小船(高松市)

# さい れい ひやく たい 祭礼百態

## ふ りゅう 香川・瀬戸内の「風流」

### 神々や見物人を喜ばせる趣向 —「祭礼風流」をキーワードにして

香川県の獅子舞、奴は全国屈指の数と多様性を誇り、また瀬戸内地域における太鼓台(ちょうさ)も注目されています。瀬戸内地域や香川県を代表する祭礼・民俗芸能として、太鼓台や獅子舞、奴は欠かせないものとなっていますが、こうした華やかなお祭りはどこから生まれてきたのでしょうか。

日本民俗学の大家柳田國男は、『日本の祭』(1942年)の中で「祭り」と「祭礼」を区別しています。「祭り」とは、神々を迎え、祭り、神人共食(神への供え物をおろして人々も食べる)して、神を送る行事のことをいいます。そこに見物人が登場し、神々だけでなく見物人を喜ばせる趣向である「風流」が広まりました。柳田は、風流が進んだ祭りのことを「祭礼」と呼び分けています。現在、地域社会で展開する趣向を凝らした太鼓台やお船、だんじり、獅子舞、奴などの「祭礼風流」は、見物人の目を意識しながら、担い手たちが趣向を凝らし進化してきた結果といえます。

### いわせお 高松城下町祭礼石清尾八幡宮の 祭礼風流

江戸時代には各藩の城下町でも祭礼風流が展開します。高松藩では2代藩主松平頼常以来、藩主の年賀、または入部後初めての祭礼の時のみ特別に賑やかな出し物をしていました。その後、5代藩主松平頼恭が入部した元文5年(1740)の8月の祭礼に、賑々しく「五段続き、作り物、踊り」などを出して、「島国に似合わぬ大祭礼なり。江戸三王祭(註)、氷川明神祭にもさしてかわらぬ」と頼恭に言わしめたものの、次の在国時には例年通りの小祭りであったため、頼恭は祭りの経費について、それまで石清尾八幡宮へ納めていた祭礼銀を町方で使う



金毘羅霊験記抜粋御会式頭人御神祭出仕図(部分) 当館蔵

よう沙汰し、毎年、「小踊り・作り物・檀尻その品をかえ一品づつ、町々が出す」ことになったと伝えています(「小神野筆帖」)。(註)山王祭のこと

### 金毘羅大祭の奴風流など

江戸時代の後半に発行された金毘羅(琴平町)の金毘羅大祭図には、傘や烏毛などの奴風流が目立って描かれています。こうした奴の奉納は現在も行われており、かつては県内各地から大祭の行列に加わりました。近世・近代においてどのような仕組みでこうした奴奉納が行われたかはよくわかっていませんが、今も県内各地で「昔は金毘羅さんのお祭りに行っていた」と伝える奴組が多く見られます。

金毘羅大祭の行列の中心は神の依坐であるトウニンの渡御ですが、江戸時代後半の行列図には多数の奴とともに、「代りの、願りの、えんま馬」などと記された馬上の人や曲乗り、馬上の仮装の人も描かれています。今は失われた馬上の風流も行列を彩っていたことがうかがえます。

### 小豆島の祭礼と棧敷文化

小豆島の神社には石棧敷が整備されているところがあります。小豆島町の亀山八幡宮をはじめ、土庄町の富丘八幡神



石清尾八幡宮祭礼図巻 上巻(部分) 当館蔵



いぎすえ  
社、伊喜末八幡神社などに見られます。これは主に秋祭りに出る太鼓台を見るためにつくられています。太鼓台も「返し」と呼ばれる芸や集団演技ともいえる「土俵舞」など、見物人を意識した動きをします。また、毎年、世間で流行したモチーフを人形につくり太鼓の上に乗せるつくり太鼓を奉納する地区（表紙①）もあります。



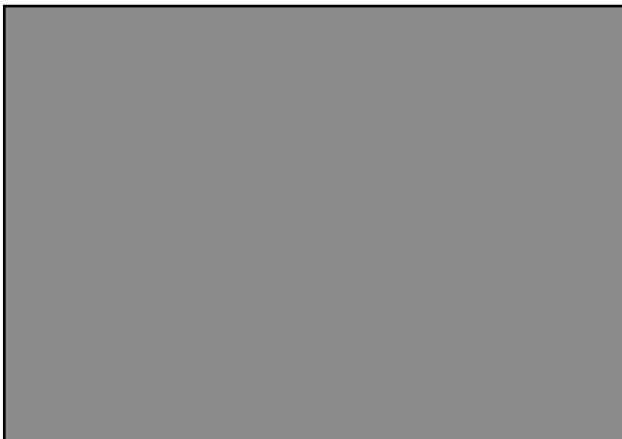
亀山八幡宮石棧敷と太鼓台奉納



伊喜末八幡神社の「土俵舞」

## ごたいてん 「御大典記念」の作り物と祭礼

今春は平成から令和へと、天皇の代替わりがありました。近代以降の祭礼風流に影響を与えたものとして「御大典記念」の作り物があります。人形や屋台を飾り立て、地元の神社などに奉祝のお練りが行われました。その時の出し物を毎年祭礼に出すようになったところもあります。三木町の天野神社の大獅子奉納は昭和3年（1928）の昭和天皇の「御大典」を契機に奉納されるようになったといいます。また、さぬき市の津田石清水神社に奉納される踊りだんじりは、大正4年（1915）の大正天皇の「御大典記念」に大阪で製作されたことがわかっています。



天野神社御大典記念大獅子(天野神社大獅子保存会提供)

## 獅子舞の風流化

もともと獅子舞は、神社の祭礼の一つ、宮獅子や当番獅子と呼ばれるものが奉納され、行列に加わっていたと考えられています。県内の獅子舞関係の記録を見ると、近世後半から近代にかけて、各神社で爆発的に増えていったことが知られていません。数年に一度の当番の年だけ獅子舞を奉納するということに飽きたらず、各組や自治会などで新たに獅子を作り、毎年奉納するようになっていったようです。こうした獅子を県内では寄進獅子と呼んで当番獅子とは区別するところもありました。

また、昭和時代になると、各地で獅子舞大会が開催され、県内の獅子舞が集まり技を競うようになりました。技の工夫や道具立て、獅子頭や油単にも趣向が凝らされ、獅子舞の風流化は一段と進みました。

## 祭礼文化の現在と未来

時代を通じて、伝統的な出し物や芸を守ってきた地域もあれば、社会の変化や見物人の嗜好を読み取り、趣向を凝らした地域もありました。また、東日本大震災以降、地域の紐帯としての祭礼文化に注目が集まったり、少子高齢化の中で今後地域の祭礼や民俗芸能をどのように伝承していくかが、大きな課題となっている地域もあります。すでに地域の伝統文化を守るため、地域を守るための活動を始めているところもあります。ぜひ、本展覧会で、地域に伝わる「祭礼風流」の多様性や個性を知っていただくとともに、未来の地域文化について考える機会としていただければ幸いです。

（瀬戸内海歴史民俗資料館長 田井 静明）

｜展 | 覧 | 会 | 情 | 報 |

### 特別展 祭礼百態—香川・瀬戸内の「風流」

県立ミュージアム史上最大規模の県内外約100ヶ所から出陣・公演。

8月3日（土）～9月7日（土）

開館時間：9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）

※8月10日～17日と8月中の土曜日は20:00まで開館

休館日：8月5日・19日・26日、9月2日

観覧料：一般1,000円

前売・団体・瀬戸芸パスポート提示（1回限り）800円

※高校生以下、65歳以上、身体障害者手帳等をお持ちの方は観覧料無料

◆関連イベント ※8頁インフォメーションもご覧ください。

#### ミュージアムトーク

8月3日（土）、17日（土） 各13:30～

申込不要

場所：2階 特別展会場（参加には観覧券が必要です）

#### ナイトトーク

8月10日（土）～16日（金） 各18:30～

申込不要

場所：2階 特別展会場（参加には観覧券が必要です）

# 県立ミュージアムと オノコプロダクションの挑戦

県立ミュージアムでは、かがわ未来のアーティスト育成事業（香川県文化芸術振興計画）の一環として香川県中学校美術教育研究会が設立しているオノコプロダクションと連携し、活動を行っています。

オノコプロダクション（以下、オノコ）とは、県内中学校間の垣根を越え、中学生が主体となって、アートを通して社会に貢献しようとするプロジェクトチームのことで、オノコは瀬戸内国際芸術祭2013への参加決定をきっかけに2012年から活動が始まり、香川県伝統工芸士（讃岐装飾瓦<sup>じんないしゅんじ</sup>）神内俊二氏が協力し、約3,000名の中学生が鬼瓦を制作しました。それをめぎ<sup>めぎ</sup>じま女木島（鬼ヶ島）の大洞窟に展示し、生徒たちがワークショップを開催するなど活動を続けています。

2016年より当館と連携して「郷土の魅力発信プロジェクト—さぬきる!!—」を展開しました。生徒たちが生活する地域の良き文化、歴史、伝統をテーマに“うどんだけじゃない自慢したいさぬき”を切り絵で表現しました。集まった県内40校約4,200点の作品は、当館の特別展と連携して3階までの吹き抜けの空間にインスタレーションとして展示するとともに、中学生によるワー

クショップも開催しました。さらに2018年には第83回香川県美術展覧会、観音寺市立中央図書館でイサム・ノグチの「AKARI」とのコラボ展示と続き、制作した生徒たちと鑑賞者は地元の良さを振り返り、郷土愛を共有しました。

昨年度のプロジェクトは県内中学校12校の美術部が参加し、「コミュニティー空間の創造」をコンセプトに、直島ホールで当館と中学生同士の交流を行いました。その後、かがわプラザ（サンポート高松）で、各校が計画したワークショップを開催し、子どもからご年配の方々までコミュニケーションをはかりながら作品づくりを楽しみ、100名以上の美術部の生徒たちが豊かなコミュニティー空間をつくり出しました。

そして、瀬戸内国際芸術祭2019が開催されている今年、オノコは再び、女木島で活動を行います。今回は、『オノコ瓦プロジェクト2』と題し、世代交代した新たなメンバーで6月には再度、神内俊二氏にご協力いただき鬼瓦を制作します。第84回香川県美術展覧会で披露した後、7月にリニューアル展示に臨みます。さらに夏会期、秋会期に女木島でワークショップやお接待の活動を通して島民の皆さんや、来場者と触れ合う時間をもちます。

当館は、この事業の意義、価値をしっかりと見据え、中学校の先生方にご協力をいただきながら、本県で育つ子どもたちが、将来「アート県かがわ」を担うことを願いつつ、アートを通して活躍できる場をつくっていきたく考えています。

（学芸員 高嶋 良子）



当館での「さぬきる」展示風景



直島ホールにて



女木島での展示作業風景



# 懐かしの高校理科実験器具と標本

## —人体模型からフラスコまで—

瀬戸内海歴史民俗資料館では、平成28・29年度に県内市町資料館収蔵庫の民俗資料や小学校保管の「昔の道具」の所在確認調査を実施しました。平成30年度からは、香川県高等学校理化・生地部会の協力のもと、高校に保管されている理科実験器具や標本などの所在確認調査を行っています。

理科実験器具や模型類は、正確なデータを得ることだけが目的ではなく、自然科学の原理や仕組みなどについて五感を使って生徒たちが理解しやすくするためにつくられ使用されてきたものです。本展では、こうした高校の理科教育各分野で使用された実験器具や模型、標本などを紹介します。

### 物理分野

等速運動などの運動方式を導き出すための「力学台車」や電気を測る「箔検電器」といった物理分野における定番実験器具は、生徒たちに気づいてもらうべき本質的な



写真1 箔検電器 (左より古い順)

部分は変わっていませんが、技術や素材の進歩、指導法の工夫により、実験器具の形態が変化したものもあります(写真1)。実験器具の発達過程の変化の一端をはじめ、物理の基本的な実験器具のいくつかを紹介します。

### 化学分野

化学の実験ではビーカー、フラスコ、メスシリンダーなど、小学校からの馴染み深い器具をはじめ、多種多様なガラス器具を使用します。以前は大容量の器具がよく使われていましたが、近年では小容量のものやプラスチック製の器具も多く使用されています。水の「電気分解装置」やサイフォンの原理を用いた「連続気体発生装置」(写真2)、「蛇管入り冷却管」など、ガラス製基礎実験装置の美しいフォルムもご堪能ください。



写真2 連続気体発生装置

### 生物分野

理科室の奥にある「人体模型」が夜になったら人気のない廊下を歩く…、何てことは今も昔もありませんが、こうした人体模型はよく見ると、各臓器を取り外すことができ、具体的な内

臓部位の理解を深めることができるようになっています(写真3)。本展では目にしながらも触れる機会の少なかった人体模型を実際に手で触れて体感していただいたり、目や耳などの器官模型も展示し、昨今流行のデジタル教材とは異なる手作りの模型教育資料のすばらしさなどを実感していただきます。



写真3 人体模型

### 地学分野

球面上に恒星・星座などを投影した「天球儀」や、「岩石・鉱物標本」・「水銀気圧計」など宇宙や地球を感じることができる様々な器具や標本類を紹介します(写真4)。教室にしながら宇宙や地球の内部や成り立ちをどう教えていたか、模型や標本などが語ってくれます。



写真4 天球儀

本展を通じて、理科準備室などに眠る理科教育史上貴重な実験器具や標本などについて広く知っていただくとともに、一部の実験器具類に触れる・使用するなどして、理科や自然科学への関心を高めていただき、「絶滅器具」ともいふべき貴重な理科教材の保存や活用についても考えていただければ幸いです。

夏休みのひと時、展示資料を通じて理科の授業を受けていた当手を懐古し、また実験器具や模型にふれ、理科・自然科学に興味を持つ時間を、五色台山上の瀬戸内海歴史民俗資料館で過ごしてみませんか。

(香川県高等学校理化部会・生地部会／瀬戸内海歴史民俗資料館)

#### | 展 | 覧 | 会 | 情 | 報 |

瀬戸内海歴史民俗資料館テーマ展  
懐かしの高校理科実験器具と標本  
—人体模型からフラスコまで—

7月27日(土)～8月25日(日)

場 所: 瀬戸内海歴史民俗資料館 第9・10展示室

開館時間: 9:00～17:00 ※入館は16:30まで

休 館 日: 月曜日(月曜日が休日の場合、翌火曜日)

※会期中、展示解説会やミニワークショップを予定しています。  
詳しくは瀬戸内海歴史民俗資料館ホームページをご覧ください。

## 県立ミュージアム

## 「日本建築の自画像」展プレ・シンポジウムを開催しました

4月29日(月・祝)午後、県立ミュージアム講堂で秋の特別展「日本建築の自画像 探求者たちのもの語り」(会期:9月21日～12月15日)のプレ・イベントとして、シンポジウムを開催しました。

新進気鋭の若手建築技師から日本を代表する建築史家まで5人の論者が登壇。まず各々の論者が地域性や風土との関わりで表れた建築における「瀬戸内のもの」とは何かをテーマに論を立て、瀬戸内海での島々の集落をめぐる現地調査や、瀬戸内地域での戦後モダニズム建築のあり方から見えてくる固有の世界について語りました。パネルディスカッションでは5人が熱ある討論を行い、約150名の会場参加者から提言等もあり、大いに盛り上がった約4時間となりました。

(主任専門職員 谷川 洋朗)



パネルディスカッションの様子  
写真右から青井哲人氏、松隈洋氏、多田善昭氏、庄子幸佑氏、佐藤竜馬氏  
写真右奥の等身大人物パネルは香川が生んだ建築家・故山本忠司氏

## れきみん

## 第1展示室に美しい魚が泳いでいます!

瀬戸内海歴史民俗資料館の第1展示室(1階)では、現在では見るができなくなった瀬戸内海の漁法や、多くの漁撈用具きょうろうを紹介しています。この展示室に今春から、魚のはく製たねを展示しました。これにより、どのような魚をつかまえるための漁撈用具か、より具体的に理解できるようになったかと思えます。

これらの魚のはく製は、すべて平成30年度、瀬戸内海歴史民俗資料館に寄贈された種政幸資料です。

種政幸氏が製作した魚のはく製は、魚の皮を切ることなく、口やエラ、肛門から内臓や筋肉などを取り出し、ジョウゴなどの道具を使って詰め物をし、姿が整った後、魚体の表面を特殊な樹脂で固め、内部の詰め物をかき出し、生きていた時の姿を再現しています。

今にも動き出しそうな美しい魚たちをご覧ください。

(主任専門職員 芳澤 直起)



魚のはく製 展示風景



## 常設展示室 1

## ゆかりの品々でたどる 天皇家と高松松平家

5月31日(金)～7月21日(日)

新天皇の即位の年にあたり、県立ミュージアムでは収蔵する高松松平家歴史資料の中から天皇家ゆかりの品々を展示します。

高松松平家は、徳川御三家のひとつ水戸徳川家の筆頭分家として高い家格を与えられ、江戸城内でも「溜詰」の大名として、幕政の最高顧問とも称される重要な役割を担っていました。また、将軍の名代として京都へ遣わされ、天皇家と関わりを持つ機会もありました。

本展では、歴代の藩主が天皇家からいただいた品々のほか、初代藩主松平頼重と後水尾上皇との和歌を通じた交流を示す資料や、大正6年(1917)に建設された松平家の別邸披雲閣に滞在した皇族から、記念に贈られた品などを通して、江戸時代から昭和時代前期までの天皇家と高松松平家との関係をたどります。

(主任専門学芸員 野村 美紀)



披雲閣で使用された椅子 大正11年(1922) 高松松平家歴史資料

■ミュージアムトーク／6月15日(土)、7月13日(土) 各13:30～

## 常設展示室 2

## アートコレクション 描かれた祭

7月17日(水)～9月7日(土)

鮮やかな多くの色を目で追っていくと、画面の中央あたりに花笠をかぶった人の顔が現れます。右の作品は香川県の綾川町にある滝宮天満宮で行われる「滝宮念仏踊」(国指定重要無形文化財)のワンシーンを描いたものです。

滝宮念仏踊は、毎夏、花笠に陣羽織をまとった下知が、太陽と月の模様をあしらった日月の大団扇を持ち、雨乞いのために、奉納するもので、この作品では、様々な色をキャンバスにおくことで、念仏踊が行われる暑い夏の風景が浮かび上がり、鉦や太鼓の音も聴こえてくるかのようです。

この作品を描いた谷本重義は、1929年に香川県に生まれ、卒寿を迎える今年に至ってもなお、精力的に制作活動をこなし、多くの作品を残しています。

本展ではこの作品のほか、所蔵作品の中から「祭」をモチーフにした作品をご紹介します。本展が「祭」を身近に感じただけの機会となればと思います。

(学芸員 高嶋 良子)



谷本重義「滝宮念仏踊」1980年 当館蔵

■ミュージアムトーク／8月10日(土)、31日(土) 各13:30～

■美術ボランティアによるトーク／会期中毎週日曜日 11:00～12:00

特別展 祭礼百態—香川・瀬戸内の「風流」 関連イベント

**講演会** 聴講無料・要事前申込

いわせお  
◎高松石清尾八幡宮祭礼図巻と大坂砂持祭礼図—恒例と臨時の祭礼—

日 時：9月1日(日) 13:30～15:00  
場 所：地下1階 講堂  
講 師：福原敏男氏(武蔵大学教授)  
定 員：230名(先着順)  
申込期間：7月23日(火)～、定員になり次第終了



高松石清尾八幡宮祭礼図巻  
上巻(部分) 当館蔵

**シンポジウム** 聴講無料・要事前申込

◎香川の太鼓台・獅子舞・奴

日 時：8月11日(日) 13:30～16:30  
場 所：地下1階 講堂

パネリスト：尾崎明男氏(観音寺太鼓台研究グループ代表)  
高嶋賢二氏(伊方町町見郷土館長)  
福持昌之氏(京都市文化財保護課講師)

コメンテーター：水野一典氏(香川民俗学会理事)

定 員：230名(先着順)  
申込期間：7月2日(火)～、定員になり次第終了

**学芸講座** 聴講無料・要事前申込

◎香川・瀬戸内祭礼百態

日 時：8月18日(日) 13:30～15:00  
場 所：地下1階 研修室  
講 師：田井静明(瀬戸内海歴史民俗資料館長)  
定 員：70名(先着順)  
申込期間：7月9日(火)～、定員になり次第終了

**民俗芸能公演** 参加無料・申込不要

日 時：8月2日(金) 15:00～ (開会式) 讃岐獅子舞保存会  
8月4日(日) 13:30～ 東かがわだんじり子供歌舞伎  
8月11日(日) 11:00～ 家浦二頭獅子舞、尺経獅子舞  
8月18日(日) 11:00～ 虎頭の舞、和藤内獅子、横内八幡太鼓  
8月25日(日) 13:30～ 綾南の親子獅子舞(中筋獅子組)、  
立石十二社神社奴組(オハコ)  
9月1日(日) 11:00～ 吉津夫婦獅子舞(大原獅子組)、牛川獅子組  
9月7日(土) 15:00～ 坂元大獅子

場 所：2階 西ロビー

**太鼓台、獅子舞とことん解説会** 参加無料・申込不要

日 時：8月17日(土) 18:30～ 水野一典氏「香川の獅子舞」  
8月24日(土) 14:00～ 尾崎明男氏「西日本の太鼓台」

場 所：2階 特別展示室(参加には観覧券が必要です)

**滝宮の念仏踊・坂本念仏踊見学会** 参加無料・申込不要

日 時：8月25日(日) 8:00ことんでん滝宮駅前集合・適時解散

**「祭礼百態」講演会・シンポジウム・講座の申込方法**

電話、はがき、FAX、かがわ電子自治体システムを利用したインターネットから。はがき、FAXの場合は、氏名、電話番号、イベント名を明記してください。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課  
TEL.087-822-0247 FAX.087-822-0049  
かがわ電子自治体システム(電子申請・届出サービス)  
<https://s-kantan.com/pref-kagawa-u/>

**「祭礼百態」ワークショップ** 有料・要事前申込

①変身仮面—お祭りをかぶっちゃおう!

日 時：8月10日(土) 10:00～12:00/13:00～15:00  
場 所：2階 西ロビー  
講 師：杉本公和氏(造形作家)  
対 象：小学生(小学3年生以下は保護者の同伴が必要)  
定 員：各30名  
参加料：400円  
申込期間：7月2日(火)～26日(金) 消印有効

②讃岐のり染 獅子ゆたん柄のハンカチづくり


日 時：8月24日(土) 13:30～16:30  
場 所：地下1階 工作室・実習室  
講 師：大川原誠人氏(県伝統工芸士)・大川原亜紀子氏  
対 象：一般(中学生以上)  
定 員：18名  
参加料：1,800円  
申込期間：7月2日(火)～8月6日(火) 消印有効

**夏休みキッズワークショップ** 有料・要事前申込

①立体地図を作ろう—香川県の戦国城あと編—

香川県の立体地図を作り、各地の城跡を調べながら、城の歴史を学ぼう。

日 時：7月28日(日) 13:00～16:00  
場 所：地下1階 研修室  
講 師：当館ボランティア・当館職員  
対 象：小・中学生(小学3年生以下は保護者の同伴が必要)  
定 員：24名  
参加料：400円  
申込期間：6月18日(火)～7月9日(火) 消印有効




写真はイメージです

②戦争中は何を食べていたの?—すいとん編—

すいとん、かぼちゃの煮つけなどを作ったり、体験談を聞いたりして、戦争中の暮らしにふれてみよう。

日 時：8月4日(日) 10:00～12:00  
場 所：地下1階 実習室  
講 師：当館ボランティア・当館職員  
対 象：小学生とその保護者  
定 員：9組(1組につき小学生2名、保護者1名まで)  
参加料：1名につき200円  
申込期間：6月25日(火)～7月16日(火) 消印有効



写真はイメージです

**「祭礼百態」ワークショップ・夏休みキッズワークショップの申込方法**

往復はがき(1枚につき2名まで)、かがわ電子自治体システムを利用したインターネットでお申込ください。往復はがきの場合は、ワークショップ名、氏名(ふりがな)、学年(児童・生徒の場合のみ)、住所、電話番号を明記してください。応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果の発信・発送は締切日から1週間ほどで行う予定です。

申込先：〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課


**カフェポット ミュゼ**

11時まで朝だけセットを販売中!(ドリンク付き500円)  
夜間開館時は20時まで営業しております。

**ミュージアムショップ**

特別展「祭礼百態」の図録を入荷予定!

■営業時間：9:00～17:00(夜間開館の日は20:00まで)



写真はイメージです

※「かがわ電子自治体システム」を利用する場合

香川県ホームページ「電子申請・施設利用申込」  
香川県ホームページ「お役立ち情報」のトップ「かがわ電子自治体システム」から「電子申請・届出サービス」をクリック

